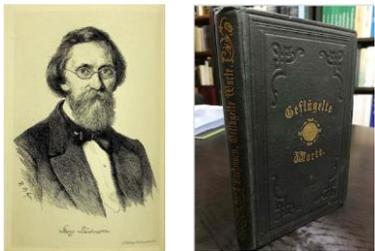


ドイツ引用句辞典の編集史

関連キーワード: ゲオルク・ビュヒマン、翼のある言葉、引用句、編集史

研究内容



私のライフワークは、ゲオルク・ビュヒマン（1822-1884）が編纂した『翼のある言葉』というドイツ引用句辞典の編集史研究である。1864年に初版が刊行されたこの本は、「ドイツ国民の引用の宝庫」という副タイトルが示すとおり、歴史的人物のよく知られた言葉、舞台から広まったセリフ、あるいは文学作品の有名な一節等、いわゆる「人口に膾炙した」言葉を集めた引用句辞典である。ただ辞典とはいっても、見出し語がアルファベット順に並べられたような退屈な書物ではなく、ギリシャ・ラテンのテキスト、旧新約聖書、ドイツ文学、さらにはシェークスピアをはじめとする外国文学に至るまで、様々な引用句とその典拠の解説が詳しくなされた、読んでいて楽しい辞典である。気の利いた引用句を会話の中にどのくらい織り込めるか、また引用されたフレーズをどのくらい知っているかがその人間の教養を示す重要なメルクマールであった19世紀教養市民層のあいだで、この書物が彼らの知的スノビズムをどれほど刺激したかは想像に難くない。ほんの220ページほどのこの小さな書は、刊行後すぐに大きな人気を博し、ほぼ毎年のペースで版を重ねるほどの売れ行きを示した。ビュヒマン没後もその編集作業は後の編集者に引き継がれ、今でもドイツ引用句辞典の代名詞となっている。私の研究の目的は、この書物の改訂プロセスを文献学的に辿ることで、編集史的視点からこの書物の独自性を明らかにすることである。その作業を通して、「翼のある言葉」という概念の学術的定義をより明確にしたいと考えている。

研究者プロフィール

- ・教養教育センター 教授 佐伯 啓
- ・専門分野 ドイツ文学・語学
- ・研究分野 ドイツ引用句辞典の編集史
- ・所属学会 日本独文学会、日本独文学会ドイツ語教育部会、東北ドイツ文学会
- ・1989年 本学専任講師、1991年助教授、2001～02年 トリア大学客員研究員、2007年 教授
- ・『ことたびドイツ語』白水社 2003年、『『知ってほしい国ドイツ』（共著）高文研 2015年 他

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

- ・「人口に膾炙する」言葉の背景には、必ずその媒介者となるメディアが存在する。たとえばビュヒマンの時代には、人々に最も影響力を与えた媒介物は、演劇の舞台であり、学校の教科書であり、あるいは教会の説教であった。それがのちの時代になると、次第に映画や音楽となり、ラジオ・テレビを経て、現代ではインターネットが最も大きな影響力を有しつつある。引用句研究は、どのような言葉が、どのようなきっかけで流行するのかという問いと密接な関係を有しているので、広告やPRといった分野に役立つと思われるヒントが多く隠されている。

研究者への連絡先

産学連携推進センター

Email srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

電話 022-354-8122

東北学院大学